



COMPASS OF LUXURY

伝説のダイヤモンドは誰のもの？

ロンドンのウェストミンスター寺院で、5月6日、イギリス国王チャールズ3世の戴冠式がおこなわれました。往復で異なる金の馬車でのパレード、ローブ、王冠・宝珠・王笏といった王権を象徴するレガリア、壮麗な寺院での演出など、どこをとっても絵として決まる、きらびやかな儀式でした。

ローブと王冠だけに焦点を絞ってみても、国王王妃で計3種類の王冠が使われ、入場時の赤、戴冠時の白と金、退場時の紫、とそれぞれ異なるローブがまとわれていました。国王が身につけるもの、持つものすべてが、細部に至るまで歴史の意味をもつ重厚なアイテムです。ローブに関しては複数の専門の係が、うやうやしく着替えさせていました。ユダヤ教、ヒンズー教、シーク教など各宗派の代表が式の進行に参加し、ゴスペルまで歌われるなど多様性にも配慮した豪華絢爛なカオスの世界のなかで、74歳になる国王の表情だけがぼんやりとお疲れのように見えたのが、やや気になりました。

中世からのデザインを踏襲する華麗なローブ、何世代にもわたって伝えられてきた王冠やレガリアの世界は、「ラグジュアリー」という観点で見れば、「ブランドビジネスによる旧型ラグジュアリー」よりもさらに古い地層に属する「王侯貴族の特権型ラグジュアリー」で

す。金銀財宝が富と地位の象徴として使われる世界。社会階級が厳密にあるなかでのわかりやすいラグジュアリーは、王の地位を顕示し、社会秩序を守る役割を果たしていました。

21世紀にはそんなことはとくに無意味になっており、古いラグジュアリーのお披露目は、イギリスという国の伝統と文化を国際的にPRする役割を果たすためのものになっています。これはこれで成功しています。

一方、かつての帝国主義が批判にさらされている今、表舞台に登場させられなかった宝物もあります。コイ・ヌール（「光の山」というダイヤモンドです。もともとはカミラ王妃が今回、戴冠したメアリー王妃王冠についていたのですが、クイーンマザーの王冠に移り、メアリー王妃王冠にはコイ・ヌールの複製がついていました。しかし、さらに遡ると、このダイヤモンドはヴィクトリア女王の時代に植民地だったインドから「譲渡されたもので、現在、インドから返却を求められています。そんな事情を考慮して、コイ・ヌールのあった場所には、カリナン5世というダイヤモンドが代用としてセットされていました。

実はこのカリナン・ダイヤモンドも南アフリカから「献上」されたもので、返却を求める声が上がっています。もしその声に応じることになるならば、王笏に

セットされる巨大なカリナン1世、大英帝国王冠にセットされるカリナン2世というダイヤモンドも外されることになりそうです。

ヨーロッパの美術館がかつての収奪品を続々と元の国に返している潮流にあつて、古い地層で育まれたラグジュアリーも変容を迫られています。新しいラグジュアリーの世界では、収奪なきフェアな関係が前提になるのです。多宗教・多文化の融和に向けて努力してきたチャールズ国王も、かつての植民地に起源をもつ伝説のダイヤモンドをどうするか、判断を迫られる時が来ると予想されます。頭上の王冠の物理的重みに耐えるお疲れと、ダイヤモンドの落ち着きどころに悩む気苦労を、あの国王の表情から読み取りたくありません。

中野香織

富山市出身。服飾史家として研究・講演・執筆を行うほか企業の顧問を務める。東京大学大学院修了。英国ケンブリッジ大学客員研究員、明治大学特任教授などを務めた。著書多数。最新刊「英国王室とエリザベス女王の100年」(君塚直隆氏との共著、宝島社)発売中。



tamaki
NOSAKA オリジナル下駄

「とっても大切!」
足の指 使っていますか?

美しい姿勢へ 丈夫な骨を育む 外反母趾対策 正しい歩行へ 浮指冷え性に

足指をしっかり使える下駄はからだに良い履物です。
健康の為に生活に取り入れてみて!

美しい姿勢に導く 選べる可愛い花柄 職人のハンドメイド

梅雨にも活躍! 防水モデルの 新色登場!

足計測は無料です。足のこと、靴のこと、お気軽に相談ください。

NOSAKA 富山店 富山市太郎丸本町 4-2-3 ☎076-461-6692 火曜定休 10:30~19:00